FOA-NEWS 通算第 28 号
2008/8/30

「ようこそ、関東審判部へ」

日本アメリカンフットボール審判協会
関東審判部　部長　東　　俊

２８名の新入部員の皆さん、ようこそ関東審判部にいらっしゃいました。全部員を挙げて歓迎いたします。
皆さんには、是非、長く審判を続けていただきたいと思います。関東審判部で、長く審判を続けていらっしゃる方々の秘訣を考えてみますと、１０ほど、その理由が見つかります。

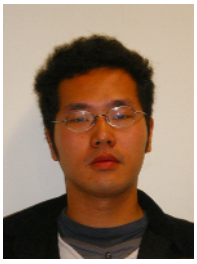
1. まず、フットボールが好きだということがあります。フットボールが好きなら、この審判という商売は、辞められません。
2. 審判を続けることで、体が絞れますし、それを維持する事ができます。毎週のように１～２試合、フィールド上で身体を動かすわけで、何歳になっても審判を続けている限りメタボの心配もなくなります。
3. 「伝統的に、フットボールは教育活動の重要な一環を担っている。」というのは、ルールブックの一番最初に書いてあることですが、審判をすることで、後輩のプレーヤーたち、若い人たちに、プレーのみならず、良い影響を与え続ける事ができます。
4. 先輩の審判で、上手な人を見つけ出して、その人を超えようという気持ちを持つ事ができます。「ＳＴＥＰＵＰ」するぞという気持ちです。向上心は、生きていく上で大事な気持ちです。目標に向かって努力を続けるということですからね。「日本一の審判になる！」と思いましょう。日本のみならず、海外でも、ワールドカップの審判として活躍するチャンスもできました。
5. フットボールの審判には、何よりも、「良い社会人であること」が求められます。また、即座の判断や、コーチとの関係構築、争いごとの解決等、ストレスやプレッシャーの下での活動が求められ、適切な対処が要求されます。これらは、社会で成功する要因の一つである、コミュニケーション・スキルを磨きます。
6. 生涯の友人を得ることも楽しみの一つです。いろいろな仕事を持った人がいます。そういう人達と共通の目標に向かって、フィールドやその他の場所で一緒に仕事をする。この事が、強力な絆を作り上げていきます。
7. またちょっとですが、お小遣いを得る事ができます。ご自分への投資、お世話になっている方々の為に使うことができます。
8. フットボールと長く付き合う事ができます。これは、フットボールへの恩返しができるということでもあります。
9. 審判仲間との共通の経験を通じて、喜びや苦しみや挫折を共有することが強い結束を生み、それが人生の宝物になります。審判であるということは、これは、経験して初めてわかることかもしれませんが、そこから、仲間との親交を深めるきっかけとなる素晴らしいことです。試合後のビールは、本当においしいですよ。そうして築き上げた絆によって、本場米国の審判とも、世界中の審判とも友人になれます。
いいことだらけです。
10. そして最後に、大好きなフットボールを一番良い場所で見る事ができます。楽しめます。ま、何よりの魅力は、特等席で大好きなフットボールを楽しめるということですね。

プレーヤーやスタッフとしてやっていたフットボール、見ていたフットボールと、審判として活動するフットボールは、視点が反対になった感じがすると思います。
また、自分の時間、ご家族、お仕事、友人等、いろいろと配慮しなければならない事、調整をしなければならない事が沢山出てくると思います。

育つためには時間が必要です。審判として必要な知識やスキルを早く身につけて、審判を楽しんでください。関東審判部は、それをお手伝いします。
まずは、大好きなアメリカンフットボールを間近で体感できる、そんな審判活動を楽しんでいただくことから始めていただきたいと思います。

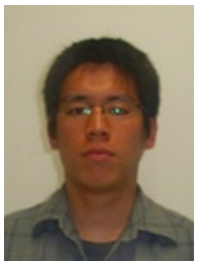
次は、フィールドでお会いできるのを楽しみにしています。

新人紹介



吉越　大祐

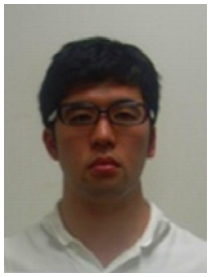
吉川　政和



金子　寛平

佐藤　文彦

佐藤　諒

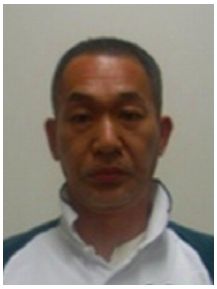


斉藤　直樹

富永　充

志沢　学

寺山　雅宏



小坂　隆之

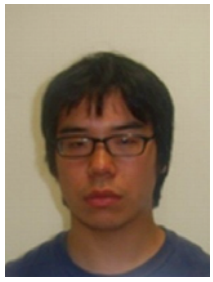
鰐部　智和

谷嶋　隼人

毎熊　隆行

辻元　秀真

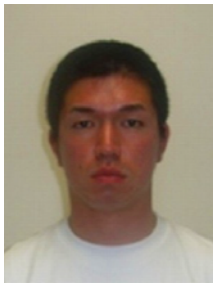
鶴見　宗康



東　武伸

復帰者

湯本　昌幸



藤波　憲人

子田　圭介

〔敬称略・部内限〕
〔一部写真のない方がいます〕

U-19　GLOBAL CHALLENGE BOWL 2008　KAWASAKI

「かもしれないメカニック」

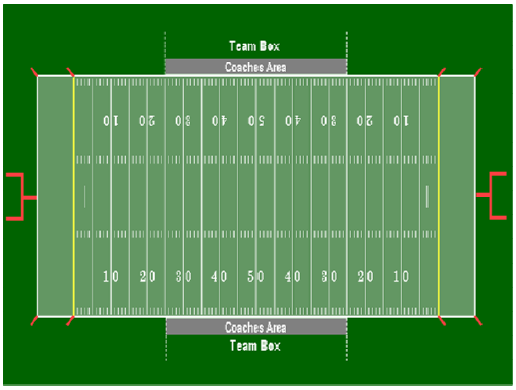
理事・インストラクター委員　馬島　敦

タックルされるだろう…、サイドラインを割るだろう…、まさか投げないだろう…「だから……をやってしまいました。すみません。」こんな会話をミーティングで聞いた覚えはありませんか？

ロングゲイン、ロングリターン、トリックプレーが最初から判っていたら、素人審判や学生が担当してもプレーヤーに抜かれる事やジャッジを見誤る事を誰もしないでしょう。最前進地点やゴールラインを後追いで示している審判員の多くは、経験から来る思い込みでスピードを自らコントロールしてしまい、「あっ！！」と気が付いた時にはランナーに抜かれ、ボックスインメカニックを崩してしまうのではないでしょうか？

早く最前進地点を示そう、早くボールの交換をやろう、そんな気持ちがあなたの行動に影響を与えていませんか？オフィシエイティングマニュアルの第２章２「忍耐は報われる」をもう一度読み返して下さい。１から７に記載されているプレーや事象は、近年の高水準な試合ではよく見かける事や注意しなければいけない事ばかりです。あらゆる現象を予測し、心して動き、判定する事の重要性を繰り返し語っています。

失敗の多くは、タックルされるだろう、サイドラインを割るだろう、ボールデットになるだろう、審判員は間違えないだろうといった「だろうメカニック」が原因になっています。タックルが決まらないかもしれない、タックルで倒されても体がグラウンドに触れず前進を続けるかもしれない、サイドラインを割らないかもしれない、審判員は間違えを犯すかもしれない、という様な１０００試合に１回起こるかもしれない万が一のプレーを念頭に「かもしれないメカニック」でカバーする心構えを持ちましょう。その気持ちを持ち続けていれば、決してランナーに抜かれずに適切な位置で視野が広く取れる位置をキープ出来るでしょう。それが私達に与えられた任務の一つの、重要な点と線と面の見極めを可能とし、正確で確実なジャッジを下すことが出来、如いてはスムーズな試合のコーディネイトにつながるのではないでしょうか？

私達は日本最高峰の審判組織です。さらなる高度な物を求める技術集団です。全国の審判員の模範となるようなメカニックを目指しましょう。私達は日本中から評価されています。メカニックの重要性をもう一度見直して、“ＳＴＥＰ　ＵＰ”しましょう！！

２００８年度の秋のシーズンに向けて「心技体」の準備をお願いします。